

Tiger Technology社「Project Serve」を発表、 NAS 共有ストレージをプロジェクト管理



Project Serve は、「NAB Show Top 5 Products」に選ばれました！

米国・ラスベガスで開催された NAB Show 2016 にて、Tiger Technology 社ブースはおかげ様で盛況のうちに会期を終えることができました。ご多忙中にもかかわらず、多くのお客様にお立ち寄りいただき誠にありがとうございました。

同社は昨年と同様に、ラスベガスコンベンションセンター South Lower Hall のストレージベンダーが多く出展するエリアにブースを構えました。Tiger Technology 社の展示製品やデモ内容について、現地からの写真を交えながらご報告いたします。



Tiger Technology社ブース風景 ▶

ブース展示みどころ

Tiger Technology 社のブースは 19" サーバラックに収納された Tiger Serve, Tiger Box のアプライアンス製品を中心に、それぞれのアプライアンスが構成する共有ストレージ環境をデモすることができるプレゼンテーションコーナーから構成されています。

黒いストレージ装置と、グレーのベゼルにワンポイントでオレンジ色を持つおなじみの Tiger Serve, Tiger Box アプライアンス製品を搭載した 19" ラックの中で、今回の 2016 NAB に向け発表された新しい藤色のフロントベゼルの Project Serve がひととき目を引くように置かれています。

その Project Serve の真下には Infortrend 社の NAS が組み込まれ、Project Serve が広く汎用 NAS をターゲットに映像のプロジェクト毎にフォルダーをストレージボリュームとして管理し、そのボリュームに対するアクセス可能なユーザ、そのパーミッション、ボリューム容量、更には、プロジェクトで作成されたクリップの Proxy データの表示等、NAS をベースとした共有ボリュームに於ける課題を管理することができる機能をデモしていました。

Tiger Technology 社は従来、ブロックレベル IO が可能な SAN、DAS を前提に、複数のユーザが FC または Ethernet 経由で共有ボリュームに対してブロックレベル IO をすることを可能にするストレージマネージメントが製品ラインアップの中心でしたが、今回発表した Project Serve は NAS 共有ストレージでもそのストレージにプロジェクトフォルダーを作成することができ、そのプロジェクトを仮想ボリュームとして管理し、ユーザー、アクセス権、割当ボリューム容量の管理を行うことが可能な環境を提供します。更に、Avid Bin-Locking に対応し、複数のユーザーがプロジェクト内のメディアを共有することが可能になります。

Project Serve ▶
Infortrend社 NAS ▶



展示製品概要

◆ Tiger Box1 SSD と projectStore Pro

Project Serve の下には、昨年 IBC で Tiger Technology 社が発表した Tiger Box1 という 1U の筐体に SSD 8 台を搭載した製品と、3U サイズの拡張ストレージ筐体 Tiger Box Expansion が組み込まれています。

Tiger Box1 は SSD を RAID 6 で構成し、IO 性能が 3,000MB/Sec の高速ストレージですが、SSD で構成されたストレージ容量は 5TB でした。一方の拡張ストレージ筐体には 16 台の 4TB の HDD が搭載され、Tiger Box1 に搭載された 6Gb SAS の RAID コントローラで 50TB のストレージとして構成されています。

この Tiger Box1 SSD をはじめ、Tiger Series には Replication & Tiering というストレージの階層管理機能があります。この機能を利用し、SSD を搭載した Tiger Box1 と Tiger Box Ex で構成された 5TB の Primary、50TB の Secondary ストレージを階層化し、8K、4K 映像の編集という高性能ストレージを必要とする編集環境に最適な共有ストレージのデモンストレーションを行いました。

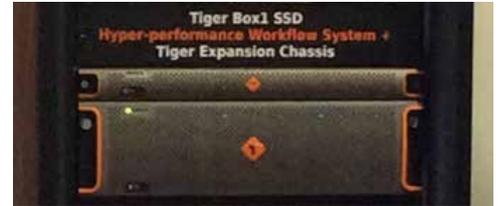


▲ projectStore PRO の Web ベースインターフェース

Tiger 社ブースでは、Tiger Series の Web UI から行う各種設定に加え、オプションのプロジェクト管理ソフトウェア projectStore PRO の Web UI でのプロジェクト作成などを、Tiger Technology 社エンジニアが個別にデモンストレーションしました。Tiger 製品の特徴とも言えるセットアップ・操作・管理の簡単さをアピールするとともに、来訪者の具体的課題や質問に対して提案やアドバイスをするなど、充実した情報提供が行われていました。



▲ Project Serve - 汎用 NAS をプロジェクト管理



▲ (上)Tiger BOX1 SSD、(下) Tiger BOX Expansion

◆ 8K/4K 用ストレージ

Tiger Box1/Tiger Box Ex の下には Tiger Serve HA と Infortrend DS4000 が組み込まれています。

Tiger Serve HA はエンタープライズ仕様の Active - Passive HA 共有コントローラアプライアンスであり、高い可用性を SAN ストレージワークグループに提供します。Infortrend DS4000 は 11,000MB/sec という高いバンド帯域を持ち、8K/4K 用ストレージとして Tiger Technology 社が推奨する RAID ストレージです。

最後に、コンパクトな 1U 共有コントローラアプライアンスの Tiger Serve 1 と、現在は Seagate Technology 社の傘下に入った Dot Hill 社の DH4004 ストレージが置かれ、更にその下に、3U の共有ストレージアプライアンス Tiger Box と IBM 社の LTO ライブラリー TS3310 が配置されていました。この Tiger Box が管理する Replication & Tiering 構成により、内蔵ストレージに配置されたデータを更新頻度に合わせて、ポリシー設定でテープ 1 巻当たり 6TB 収納できる TS3310 へ 8Gb FC を介して移動させる環境のデモを行いました。

おわりに

Tiger Technology 社のブースには、同社従来製品である metaSAN/metaLAN のユーザー、リセラーを初め多くの来場者がありましたが、同時に AFA ストレージ (All Flash Array Storage) ベンダーやテープライブラリベンダーが訪れ、パートナーリングによる協業の打ち合わせにいとまがありませんでした。

今回、IBM 社が同じく South Lower Hall で Adobe 社の隣に大きなブースを構え、各種製品の展示を行っていました。その中で、IBM FS900 という AFA ストレージと Tiger Serve HA で共有ストレージを構成し、Glass Valley Edius, Adobe Premiere, Apple FCP X で 8K、4K の映像編集環境のデモを行いました。多くの日本人来場者が、AFA と Tiger Serve によって実現された 8K、4K 映像を確認していました。



▲ (上)Tiger Serve HA と Infortrend DS4000
(中) Tiger Serve1 と Seagate DH4004
(下) Tiger Box と IBM TS3310

[発行元]